

平成30年度学校自己評価システムシート (滑川町立宮前小学校)

目指す学校像	みんなが笑顔の学校
--------	-----------

重点目標	1 基礎基本の定着、学習意欲の向上、学習習慣の確立 (学力、体力の向上) 2 積極的な生徒指導の推進 (豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立) 3 学校・家庭・地域との連携 (開かれた学校づくり)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○授業規律は概ね良好である。 ●各種学力調査の結果から、基礎的な知識及び活用する力に課題がある。</p> <p>○新体力テスト総合評価上位3段階 (A+B+C) の割合が86.7%である。 ●新体力テスト総合評価上位2段階 (A+B) の割合が男子は48%である。</p>	<p>学力の向上</p> <p>体力の向上</p>	<p>○各種学習状況調査 (埼玉県、全国) の結果に基づく、授業改善サイクルを確立する。 ○学校課題研究を計画的に推進し、「主体的対話的で深い学び」を目指した授業づくりを行う。 ○体力プロフィールシートの活用を図る。 ○家庭の協力を得て、「家庭学習のすすめ」「ターナちゃんノート」の活用推進や体力向上や望ましい生活習慣の確立を図る。</p>	<p>○学校評価に係る保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し9割以上が好意的な評価したか。</p> <p>○授業改善サイクルを確立したか。</p> <p>○新体力テスト総合評価A+Bが50%を超えたか。</p>	<p>○保護者アンケートでは、学習規律90%、学習意欲84.8%、学習習慣90.3%と高い評価を得たが、学力向上を実感できないとする回答が17.1%であった。 ○授業改善サイクルを確立を期した授業研究会を進め、学校課題研究を推進した。</p> <p>○新体力テストの総合評価A+Bが男子55.8%女子62%と50%を上回ることができた。</p>	B	<p>○各種学力調査結果の活用未だ課題がある。授業改善サイクルの確立を一層推進する必要がある。また、授業参観や学校公開を通して学校の取組に対する理解を得ると共に家庭学習の充実のため協力を依頼する。</p> <p>○投力・柔軟性・跳力の向上を図るとともに、特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を実践する。</p>
2	<p>○自尊感情を高める指導を続け、一定の成果を得た。 ●今後は、「褒めて育てる」から「認められて育つ」へのシフトを意図して、自己有用感を高める指導が必要となる。 ●社会性の育成を意図して「人の話をしっかり聞く」指導を徹底する必要がある。 ●基本的な生活習慣の課題から、学習や人間関係に悪影響を及ぼしている例が見られる。</p>	<p>豊かな心の育成</p> <p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p>○目指す児童像が見られるように仕向け、一人一人の存在を認める勇気づけの声掛けを意図的に行う。 ○「傾聴」の指導を徹底的にする。 ○教育委員会、健康福祉課、保健センター、嵐山学園、民生委員等関係諸機関の協力を得て、家庭との連携を強化する。</p>	<p>○児童、保護者対象のアンケートで、基本的な生活習慣の確立に関し9割以上が好意的に評価したか。</p> <p>○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。</p> <p>○関係諸機関、家庭と連携し、課題を解決したか。</p>	<p>○約84%の教師と約81%の保護者と約90%の児童から基本的な生活習慣の確立に関し好意的な評価を得た。</p> <p>○傾聴し合う児童づくりや自己有用感を高める指導に全ての教員が取り組んだ。傾聴・自己有用感ともに約55%が「あてはまる」約45%が「だいたいあてはまる」であった。</p> <p>○保健センターやSSW等と連携しケース会議を開き、課題のある児童に対し組織的に対応した。その結果、課題のある児童も学校生活に徐々に慣れることができた。</p>	B	<p>○あいさつ、丁寧な言葉遣いに課題がある。「目指す児童像」の育成を期した指導を一層進める。</p> <p>○自己有用感の育成、傾聴の指導は、一定の成果を得たが、来年度も指導を継続する。</p> <p>○課題のある児童に対する適切な指導方法について、校内研修を一層進め、教職員の指導力を向上する。</p>
3	<p>○「開かれた学校」について好意的な評価を得ている。 ○あいさつ運動に地域の方にもご協力いただき、一定の成果を得ている。 ●学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる教育を進めるため、保護者や地域の力を一層活用する必要がある。 ●登下校時の安全確保の観点から支援拡大を図る必要がある。</p>	<p>開かれた学校づくり (学校の動きが見える取組)</p>	<p>○授業公開、学校だより、学年だより、学校HPなどを活用し、児童の様子や学校の方針等を積極的に情報提供していく。 ○保護者や地域の声を聞き、「現場主義」で対応する。 ○職員もPTA行事や地域行事に積極体に参加し連携する。 ○学校応援団の普及を図る。</p>	<p>○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、9割以上が好意的に評価したか。</p>	<p>○保護者アンケートでは、「相談」85.6%、「開かれた学校」88.8%、「連携・協力」91.2%の好意的な評価を得たが、相談活動についての評価がやや低かった。</p> <p>○学校応援団長をはじめ、多くの支援をいただいた。コーディネーターの位置づけや機能強化に課題が残る。</p>	A	<p>○保護者との二者面談の機会を設け、連携を強化していく。</p> <p>○学校応援団を効果的に活用できるよう、応援団長と協力し、組織を整える。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 平 成 3 1 年 2 月 1 2 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<p>○授業規律や学習意欲・態度について高評価を得ている。ねらいを明確にし児童主体の学習となるよう授業を工夫することにより学力向上を目指してほしい。若手教員が多いのでベテラン教員が授業を見せる等も効果的である。 ○全国学力・学習状況調査では、問題文の読み取りが難しい。このような問題に慣れるような授業の工夫をするとうい。</p> <p>○行事を精選し、教員が児童と向き合える時間を一層確保することが大切である。また、例えば連絡帳を通した保護者とのやりとりを簡略化する等、業務内容を見直して時間を生み出してほしい。行事精選、業務の見直しについては、保護者への丁寧な説明が必要であろう。</p> <p>○地域住民の目で見ても、基本的な生活習慣の確立に向けた生徒指導が実を結んでいる。 ○集会の様子を見ても、傾聴する姿勢が児童に身につけている。教職員の繰り返し指導が功を奏している。 ○ケース会議が今年度は充実していた。このことで課題の有る児童を大切に、適切な対応に繋がった。 ○課題の有る児童に対して全教職員・関係機関が情報共有し生徒指導に取り組んでいる点が良い。 ○発達障害の児童を受け入れ多くの目で育てていこうという姿勢を保護者が持てると良い。そのためには、保護者対象に発達障害について研修する場を設けてみるのもよい。</p> <p>○3項目の設定に対し、多くの保護者から支持を得ていることは、高く評価できる。 ○学校応援団コーディネーターを機能させることが大切である。コーディネーターが中心となってそれぞれの学校応援団への連絡・調整をしていくとよい。 ○PTA役員と連携し、保護者全員が学校応援団という視点で協力を依頼することも大切である。保護者から地域に広げること大切である。</p>	